



かもめ組だより 8月号

令和7年8月26日

天沼保育園

かもめ組

「〇〇できるんじゃない?」「〇〇したら楽しいんじゃない?」「やってみたい」と子どもたちから多く聞こえてくるようになった夏。暑さで水遊びなどできる回数は減っていますが、今できる遊び、やってみたい遊びを思い切り楽しんでいるかもめ組です。子どもたちがお休み中に経験したこと、感じたことから始まった遊びを紹介しますね。

《かもめ花火大会》

これは室内遊びの時に始めた積み木遊びがきっかけとなり、盛り上がった遊びです。積み木で作った塔を光らせようと懐中電灯を使うと天井や壁に映った光を捕まえようとしたり、触ろうとしたり…大興奮。手や人形を映して影絵の楽しさ、不思議さも味わいました。せっかくみんなが楽しんでいるこの光を使って色々な遊びをしてみようとカラーセロファンを用意。また「この前花火見たんだ」との会話から花火大会が実現しました。ホールにゴロンと寝転び、「たまや～」と言いながら見る花火は格別です。



《かもめ映画館》

暗いお部屋で花火などを楽しんでいたからなのか、「映画館ができそうじゃない?」と映画館を思い浮かべているような会話が聞こえてきました。「映画館かぁ、どうやってできるかな?」と考え、何度も読んだことのある『まいごのたまご』の絵本を使って挑戦してみることにしました。これは恐竜の卵が迷子になるお話…恐竜や恐竜の卵、絵本に出てくる“影”に興味をもち、オリジナルの卵を描いたり、恐竜を作ったりしていきました。ホールでやる予定でしたが、バルーンの中にみんなで入ってやっても楽しいかもと“バルーンシアター”として楽しむことに。絵本とは違い、恐竜が動いたり、大きさが変化することを楽しんでいました。



《かもめ水族館》

かもめ組には生き物博士がいます。「ジンバイザメはプランクトンを食べるんだよ」「これはナポレオンフィッシュって言うんだよ」と色々な生き物を紹介してくれ、周りの子も「水族館行ったことあるよ」などと話している姿が増えました。また図鑑を友達や保育者と一緒に見て新しい発見を楽しむ姿が見られます。花火を少し変化させて水の中の生き物を自分たちで作ри、映してみると暗いお部屋の中に泳いでいるように見えるお魚たち。ホールやお部屋で泳がせたり、給食の時間に少しお部屋を暗くして水族館ランチをしてみたり…特別な空間で過ごすひと時を楽しんでいます。ホールでバルーンを楽しんだ時に「お魚さんを泳がせてみようか」と光を当てるとカラフルなバルーンの中を色とりどりお魚さんが泳いでいてワクワクする空間に。壁や天井、床だけでなく、もっと色々な楽しみ方があるんだなと気付かせてもらうきっかけとなりました。



懐中電灯を近づけたら大きくなる、話すと小さくなるなどといった光の不思議についても興味をもち、「大きくなってる」「小さくなってる」と発見もしていました。

《じゃあ、この遊びを…》

最初はクラスで楽しんでいましたが、少しずつ「〇〇先生、今度見せてあげるからね」「〇〇くんも見たいって言ってたよ」などの声が聞こえてくるようになりました。自分たちが作った遊び、楽しいと感じた遊びを他のお友達や先生に楽しんでもらいたい！という気持ちも育まれているんだなあ…と8月下旬、ペンぎん組さんやいるか組さんを招待し、花火大会や水族館ごっこを開催！「綺麗」と感動をしてくれたり、「最高の1日になった！またやりたくなっちゃう」「作ってみたい」と声をかけてもらったり…子どもたちの表情も誇らしげ。喜んでもらうことの嬉しさを感じた1日となりました。このような異年齢児との関わりを通して、優しさ、憧れなど様々な気持ちを味わってくれたらなと思っています。

子どもたちが不思議さや面白さを感じ、「これやってみたい」「どうしたらこうなるんだろう？」と思うことにより、どんどん新しい考えや思いが生み出され、遊びが広がっていきます。結果ではなく、楽しむ過程の中でより多くの気付き、発見を楽しんでくれますように…そんな願いを込めて「やってみよう！」と色々な遊びと一緒に経験することを大切にしています。